

令和7(2025)年度第1回学術システム研究センター運営委員会

議事概要

1 日 時 令和7年7月24日(木)～8月18日(木) (メール審議)

2 参加者

(委員)

山本委員長、相澤委員、井上委員、喜々津委員、栗原委員、瀧澤委員、辻中委員、永田委員、林委員、吉野委員

3 議事概要

<議題>

(1) 前回議事概要(案)について

資料1について、原案のとおり、令和6(2024)年度第2回学術システム研究センター運営委員会議事概要の内容及び公開について了承された。

(2) 令和8(2026)年度主任研究員選考に係る学識経験者について

資料2について、2つの班で同一の学識経験候補者を挙げていることについて、当該候補者の専門分野を踏まえ、一つの班のみとした方がよいとの指摘があったため、もう一つ班の学識経験候補者を新たに挙げ、了承された。ほかに以下の意見があった。

- 過去の研究員の記録を見ると分野のバランスをとって選考されていることが分かる。ただ、この分野を決める基準、例えば科研費の応募件数、割合、応募件数の増減を示すなど、ダイバーシティが保たれていすることが分かるように心がけてもらいたい。

<報告>

(1) 令和8(2026)年度新規研究員候補者の推薦状況について

資料3について、各機関のカテゴリごとの推薦割合に関する質問があり、国立大学46.5%、公立大学4.9%、私立大学2.4%、大学共同利用機関法人35%、独立行政法人等0.6%と報告があった。ほかに以下の意見があった。

- 研究員の選出を広くできるよう候補者を増やす呼びかけなどの努力が必要である。
- 大学によって推薦者数に大きな違いがある。機関別の推薦者数を公開することで、他機関の情報を見て多く推薦しようと思う機関も出てくるかもしれない。

(2) 令和7(2025)年度学術研究動向等に関する調査研究の実施について

資料4について、以下の意見があった。

- 本調査は、各分野(および融合領域)における国内外の萌芽的な研究を含む学術研究動向を把握し、次代の研究の予測等に基づいて、諸事業に対する提案・助言の一助とすることが主目的であることから、研究員には趣旨を十分理解した上で実施いただきたい。